西独だより
食事は日に四回
革づくめの坑内姿

三池の皆様、永らくご無沙汰いたしました。春闘に連日ご奮闘のことと思います。私たちも三池を離れて二カ月近くなりますが一同元気で働いています。

今日はいままでの生活状態や日本と違う当地のことを簡単におしらせいたします。

炭労傘下二十社より派遣された五十九名が二交替に分れて日本人払で見習鉱夫としてホーベル払の実習を行っています。朝早くから七時間半の拘束時間で帰ってから一時間半の語学講習があり、何かと多忙で自分の時間があまりない生活の日々です。宿舎の設備、娯楽用品、自分たちの身の廻り全部何不自由なく整っています。食事は日に四回で、朝はパン（ジャム蜂蜜、バター）とコーヒー、紅茶ココアなどで、弁当はサンドウイッチ（ハム、ソーセージ、肉類各種）三切か四切とコーヒーを水筒に一リットル持って仕事に行き、帰舎後三時に昼食でスープにジャガイモ、マカロニー、ミルクライス、ゾーゼ等毎日違った種類があります。金曜日は宗教の関係で肉は食べず魚です。夕食はスパゲッティやジャガイモの油いため、ミルクダゴなどです。大体ジャガイモが主食ですが、日本のよりうまいです。何の料理も甘いか酢っぱくて醤油や味噌があったらなと思うことがあります。

悪い保安設備

ビールもお茶がわりとか日本でいっていましたが、何時でも飲めるというものでなく他家を訪問したときお茶がわりに出す位で、買って飲まなければなりません。日本より安いというだけです。

十日間の入坑で感じたことは三池にくらべ保安設備などルーズです。ここで働いている鉱夫は日本の鉱夫と全く同じですね、坑内での話やゲージを待つ間のしぐさなど。

キャップランプは測量、電気、機械、通気など一部の人が使用し他は重い手提ランプを用い、自分の作業現場に吊して作業しています。私たちも使用しましたが馴れないので、日本人は新しいキャップランプを買って貰いました。

かれらは腰が弱いので肩から吊しています。何しろ帽子から手袋靴、水筒下げ、尻当てなど皮製品ばかりです。

街は至って質素

ここデユスブルグは地図の上では北樺太に相当し、いつもどんより曇って太陽の顔などあまりみませんが大牟田より暖いです。大きな街ではありませんがネオンサインや街頭宣伝、盛り場、映画館のレコードなど全然かけてなく非常に質素です。映画館も入れ替えしで入れるだけ詰めこむということはなく、席があるだけ時間を区切って観覧するなど日本でも見習はなければならぬと思います。交通道徳は立派で、もちろん道路など立体交差で高速自動車道路があり、人道、車道、自転車道と区別され、交通信号によってよく守られています。交通で忘れてならないのにライン河があります。沢山の運河をつくり、生産物、消費物の搬出入が行われています。このように河を利用し運河をつくっている設備、規模など世界一だそうです。

高い煙草料金

対日感情は非常によく、日本はよくしらないが広島と長崎には〃アトンボン〃（原子爆弾）といって非常に同情してくれます。またさいきんの中近東問題などの避難民も沢山鉱山で働いています。物価は米一キロが七十七円位でいくらでも買えます。味は少し落ちます。衣料品は日本と殆んど変りありません。皮製品、時計、写真機万年筆など安いようで、煙草に交通費が高いです。

煙草は十本八十円から八十五円で汽車賃は日本の一等料金位します。もちろん日本の一等車なみの車です。

最後にこんごのご奮闘を遠い異国の空よりお祈りします。

‖映画紹介‖

黄色いからす

中国から十年ぶりに帰ってくる夫（伊藤雄之助）迎える妻（淡島千景）と子（設楽幸嗣）の感激的な出迎えからこの映画は、はじまる。こどもは父親が帰って来たら、あまえたいし、いろんなものを買ってもらいたいと夢をみている。

妻は十年の間、苦労した夫と理性を越えての夫婦生活をつづける。夫は十年間の空白で会社でのポストが浮きあがり、仕事えのあせりをみせる。

この三人の生きかたがそれぞれ、お互いを理解しない方向え進む。この中でこどもは、自分が家庭からハジキ出された不満をもち、その児童心理を色彩映画でうまく出している。

この題名の「黄色カラス」とは、愛情に飢えた孤独なこどもは黄色と黒の絵を描くといわれているがこのこどもの描く絵もそうで、きづついたカラスを孤独感から可愛がっているが、父の無理解で、とりあげられ、悲しみといきどおりで、黒いカラスを黄色く描いて、父えの反抗を試み家出する。

このところから、この題名が出来たものと思う。

× × ×

この映画は子供をもつ親達に是非みてもらいたいものだ。

わたしなども仕事のことでいろいろ苦労している場合、その延長が家庭まで持込み、子供に対する仕打ちが必ずしも上等といえない場合が多くある。その点この映画をみて、反省させられて、子供の側に立った家庭生活をしなければならないと思った。（敵）

（二十日より大天地）

‖健康相談‖

疲労回復の食事と有効な体の休め方

問　超過勤務を強いる〃神武景気〃のおかげで、疲労がひどく感じられます。疲労回復には主にどんな食物をとったらいいでしょうか。

答　最も早い回復法はアルコールです。清酒なら二合以内、チユウなら一合以内です。つぎには糖分です。しる粉、ココア、甘酒、あめ湯といったものでしよう。コーヒは真の疲労回復ではありませんが疲労感は減らせます。ゆっくり回復させるのにはビタミンB1、B2、Cなどの多い食品です。例えば、牛乳、卵、豚肉、肝ぞう、みかん類（特に夏みかんとレモン）といったものです。

疲労のつづくときの回復法としては、この他に良質のタン白質をとって肝ぞうを守ることで、それには牛乳、卵、いわし、にしん、とうふ、なっとう、ゆば牛豚鶏肉といった食品です。

問　昼休みは現場で働く者にとって、きつい労働の中でのオアシスです。有効な体の休め方といったものがありましたら、御教え下さい。（現場労働者）

答　同感ですね。昼休みは休養本位に考えるべきで、この時間にキャッチ・ボールをしたりピンポンやるために、そそくさと昼食をかきこむ勤労者をよく見かけますが、とんでもない錯覚だと信じます。

昼休みは、なるべく両脚を投げ出した姿勢で寝そべるのが一番よろしい。気のおけない親しい友だちと並んで寝ころび、アテもないおしやべりをするのが最上の休養だと思います。そうしたい人がなかったら、ただ脚を投げ出して、ボンヤリしているのがいいでしょう。本を読むのは不適当です。両脚投げ出しさえすれば、横にならなくてもいいでしょうが、最上はひるねであることはいうまでもないでしょう。なお顔だけは日光に当てないこと。

問　かかとの部分がかさかさになり、あかぎれのように幾筋もヒフが割れます。痛くもかゆくもありません。「ナイロン靴下のせいではないか」といわれたこともありますが、原因と手当をお教え下さい。（一女性）

答　現在のナイロン靴下には、そうした刺激作用はまず無かろうと思います。おそらく単なる皮脂の欠乏によるものと思われますから薬局でビタミンA・D入りのクリームを買って、朝と晩の二回だけ、しっかりそのかかとの部分にすりこんで下さい。靴下のかかとがクリームで汚れるのが難点ですが、ぬるま湯で軽くもむだけで落ちますから。なお靴のかかとの部分が凸凹したら、薄い皮かゴムの下敷をあててはいて下さい。クリームは二週間はつづけないと効果は出て来ません。根気よくつづけてみて下さい。

大番

週刊朝日に連載され、多くの人々に愛読されている「大番」の映画化である。

正直でユーモラスでエネルギッシユな主人公、赤羽丑之助（通称ギユーちゃん）の物語り。

彼の履歴書は

カンコロ飯を主食とする南の寒村に貧農の子として生まれた。

私の名前は赤羽丑之助。

金がないのは愉快じゃない、小学生時代、ズックカバンに銭一杯、儲けてみたいと夢を見た。

十六にして村の習慣に従って、お吉後家から愛の洗礼をうけ、その天上の美果に茫然自失、金の外にもう一つ夢のあるのを知った。

十八の年、特別異常の精気が体内に溢れ、ガリ版刷のラブレターを、町の富豪森家の令嬢にわたし、村中を大騒ぎさせた。

裸一貫ままよと家出、西も東もわからぬ東京で株屋の小僧、横幅広く団子のような図体、ノロマで大食いというところからギユウ公とアダ名がついた。

とにかく美男でなく、人並以上にゼニコもうけて人から嫌われぬ図々しさをもつところに、この小説や映画の主人公ギユーちゃんに共感がもてるのがネライ

（十三日より太陽館）

囲碁教室（1）

一局の碁においては、ごくはじめの間を除いて、彼我の石の接触するところ、部分的に常に一定の形の石ができます。そしてこれに処する良手もほぼ一定のもので、これを筋や形といいます。筋は攻めの急所を指し、形は守りの急所です。隅の互角の打ち方を示した定石は勿論、一局の碁は殆んど筋と形の連続であるともいえますので、まずこれに明るくなることが上達の近道です。

愚形の標本

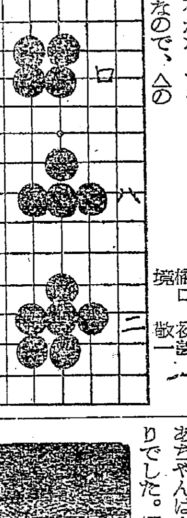
第一図イ、ロ、ハ、ニの石の形を愚形といいます。（形には、前述の守りの手段としての他に、格好や姿がよいとか愚形その他の悪形でない好形という意味もあり、ここでは後者の意味です）

イ、この形を「ダメあき三角」略して「明三」といい、それはいの点のダメが空いている三角の意味です。同じ三角でもいの点の白石がある場合には明三ではありません。〇の二目は△の石がなくても連絡している形なので、△の一目は現在不急の無駄手です

ロ、「団子形」又は「集四」。このように石が一カ所に凝集することは、石の働きに無駄のあること勿論です。同じ四目でも真直ぐに立った形と比較して下さい。又イ図に更に不用の一手を加えたとも考えられます。

ハ、「盃形」、又は「陣笠」。明三角が二カ所にできている形です。

ニ、「花六」の団子形。イロ両図を一緒にしたような形です。



橋口初段　境敬一

なるほど

炭界好況

捲土重来に炭鉱株を張るんだ

―赤羽丑之助―

（本部・万太郎）

‖童話‖

かつぱの話

吉村綾子

ゆきちゃんお元気ですか、姉さんはとても元気で働いています。ずーっと前のゆきちゃんのお便りの中に、時々お手紙をくれるようにと云っていましたので、今日はお話を書きます。

ゆきちゃんは頭が真白でペシャンコにやせていたおばあさんを、おぼえているかしら。姉さんがゆきちゃんぐらいの年のころ、おばあちゃんはもうリウマチでねたきりでした。姉さんは時々おばあさんのねどこのよこにすわって、もぐさを小さくちぎりながら、おばあさんの肩やらでにおきゆうをすえてあげていました。姉さんはそのころから、おきゆうをすることがとても上手でしたので、おばあさんはいつもほめて下さいましたそんなときおばあさんはおもしろいお話をして下さいました。

かつぱやきつねや、たぬきなど動物のお話ばかりでした。その中でも姉さんの一番すきなお話はかつぱの話でした。ですから今日はかつぱのお話をしましょう。

かつぱは、一年ちゆう川の中ばかりに住んでいるのではなくて、冬（ふゆ）の間（あいだ）は山の土の中でねむっているのです。春の彼岸（ひがん）の中日（春分の日）には夜になると、山の方から大勢のかつぱたちが、川の方に下ってくると、おばあさんは云っていました。山から下りてくる時はジャンジャラン、ジャンジャランと大きな鈴（すず）をふるような音をさせ、赤（あか）くもえているたいまつをそれぞれ手にもって列（れつ）になってくるのです遠くから見ていると赤いたいまつの光の行列が夜霧（よぎり）にかすんで、山のすそから川の方に流れこんでいるようで、とても美しいながめだそうです。そのかつぱたちが、川の中にはいる時は何の音もせず、まるで川のそこにすいこまれていくようだといいます。

そしてジャンジャラン、ジャンジャランという鈴の音は夜が明けるまで一ぱんじゆうなっているのです。かつぱのはだはみどり色のこけのようで、川の底にいても水のふかいところの色と同じようで、ひる間でもわからないのです。そして夜になると川の岸でよずりをしている人がいると川の底から出て来ていろいろと釣のじやまをするので、釣をしている人はおこって「じやまをするな」と云うと、かつぱはのそのそはいあがってきて、すもうをとるようなかつこうをしてとびついてくるので、その人も少しきみがわるいのですが、しかたなく、かつぱの体をしっかりにぎって、いろいろわざをかけようとしても、かつぱはだがぬるぬるしてすべるので、なかなかむずかしくて勝つことができないと云います。その間他のかつぱたちは、すもうを取っている人と、かつぱのまわりにあつまってきて「きゆ」とか「ぎや」とかへんな声を出してはやしたてるそうです。

そしてかつぱに負けたら一ぱん中釣をしていても一ぴきもつれないそうですが、もしも勝ったら、糸をあげるたびに大きい魚が釣れるのです。姉さんたちは夏になると毎日川に泳ぎに行っていました。八月のうらぼんの日（十五日）は七回泳いでよいといわれていましたので、一日中出たりはいったりしてあそんでいました。だけどおぼんをすぎたら、川の中で泳いではいけないといわれていましたので、十六日からはだれも泳ぎませんでした。

それはなぜかというと、かつぱたちが出てきて泳いでいる子供の足をひいて川のふかいところにつれてゆき仲間にしてしまうそうです。

そうして秋の彼岸の夜がくるとかつぱたちはまたジャンジャランジャンジャランと鈴の音をさせながら、赤いたいまつをもやして、ながいながい行列が川から山の方へのぼって行くということです。かつぱたちは山の土の中にはいっていくのです。そしてまた春がやってくるまでねむるのです。

ゆきちゃんこれでかつぱのお話はおしまいです。でもね、ざんねんなことに姉さんはかつぱの行列を見たことがありません。ほんとうにこんなお話のようなことがあるのなら、一度ぜひ見たいものだと思います。

ではお元気でね、さようなら。

（筆者は緑ガ丘弥生町）